

お知らせ

○次回定例活動日；5月24日（日）9時30分第2駐車場集合、主な活動はシイタケ本伏せ、巨木林調査、植生調査、食害調査、井戸堀り（古井戸復元）など。新緑と花の最も美しい時季です。多くの方の参加を歓迎します。ご家族、友人ご同伴も歓迎です。

○第6回里山フェスティバル；「里山と食料・水・木材」全体会が5月17日（日）午後、佐倉市志津コミュニティセンターで開催されます。詳細は「ちば里山センター」ホームページで閲覧ください。

活動の記録

5月4日（月・休日）晴 臨時活動日 大賀先生を講師に久しぶりの植生調査・観察会 参加は伊藤・岩崎夫妻・鶴沢・栗山・小又・宗夫妻・福島・真鍋・村野。先生を含め12名参加の盛況。

午前中は景観管理林から巨木林を、昼食時間を短縮して午後はスタジイ林、続いて健脚組は崖下探索、その他大勢はマダケ林・ホテイ岬方面と終日豊英島の植物を心ゆくまで徹底的に調査・観察し、充実の一日でした。

以下に主なトピックを紹介します。記事中のB・C・Dは千葉県レッドリストB:重要保護植物、C:要保護植物、D:一般保護植物です。

★ガマズミ・コバノガマズミ・ミヤマガマズミ(B)の葉と葉柄の相違を詳細に観察、林内にミヤマガマズミ2株を確認した。開花・結実を見るためには少し周辺の間伐が必要との少数意見や角トギ保護金網補強が必要との意見も。

★マルバアオダモとアオダモ(コバノトネリコ)(注1)の鋸歯の特徴を真剣な眼差しで比べたり、ハンショウズルの花一輪やミツバツチグリの花など草本も気になって、観察ツアーが遅々として進まない。

★ウグイスカグラ・ヤマウグイスカグラ・ミヤマウグイスカグラ(D)の3種を確認。ミヤマウグイスカグラは新確認種。(注2)

★二次調査の3年間所在不明・未確認であったキヨズミイボタ(D)を広場近くの観察路沿いに大賀先生が確認されました。(注3)



久しぶりの植物観察会に参集の面々



熱心さのあまり進行は遅い



ハンショウズルの花一輪



ウグイスカグラの赤い実



紅白のエビネが隣り合わせに



ササバギンラン

★巨木林の林床に色の異なるエビネ(C)の群落、一方は鮮やかなエンジ、他方は白い清楚な色、またO4年種菌ナメコホダ木周りに開花したササバギンラン(C)の群落、また禁断の岬に向かう観察路上にも4株、今年はササバギンランの当たり年か？

★昼食休憩を半時間で切り上げて午後の観察はスダジイ林へ、昨夏開花したクロムヨウラン（B）は食害に遭わず健在、4月に保護したキンラン（D）は金網内で見事に開花、「籠の鳥」ならぬ「籠の蘭」

★福島班長に率いられた健脚組は禁断の岬奥のバカマツタケ群生地崖下にイワタバコを探索、6月の開花をお楽しみに。

★その他大勢組は林床に開花前のイチヤクソウやオオバノトンボソウを見ながらモミ・ツガ林でモミやツガ、アカマツなど観察。幼木が林冠を覆う先輩木の寿命を数十年間気長に待つという伊藤さんのお話に聴き入る。

★ホテイ岬を徘徊しマダケ林との境界にツチアケビ（C）発見。2年前食害のため死滅した保護金網内に4株、2歩離れた観察路上に1株、ニホンジカのケモノミチにあり、皆で食害防止金網を用い保護した。昨年開花・結実した島入口近くの金網内のツチアケビは動物か人間？の食害で消失したがマダケ林側の復活で死滅を免れた。

★マダケ保護柵東側に枯れた花柄（蒴果）を発見し、栗山さんが腐生植物の一種：ギンリョウソウ（C）と同定（注4）。夏の出芽時期には保護の必要がある。マダケ林、ホテイ岬には開花前のサイハイラン（C）やコクラン数株と開花したキンラン1株を確認した。

観察ツアーの後、全員広場に集まり、今日の成果、特に印象に残る植物など話合いました。この日の調査で大賀先生は樹木91種、その他60種合計151種の植物を確認されました。この中には一次・二次調査で未確認のクロマツ、カエデコロなど初確認種が数種あります。再確認が必要なものもあります。

近いうちに一次・二次調査リストと併せて「豊英島植生リスト」に編集・整理します。

（注1）先生再確認の結果、問題の「アオダモ」は鋸歯の状態からマルバアオダモであり、アオダモ（コバノトネリコ）は当日「未確認」と判断されました。

（注2）葉の腺毛の状態などからウグイスカグラ・ヤマウグイスカグラ・ミヤマウグイスカグラの3種を比較、同定した栗山資料を3頁に掲載します。

（注3）キヨズミイボタと同定するには枝や葉面の毛の夏～秋変化を観察し、再確認が必要との先生の判断です。

（注4）ギンリョウソウは夏の出芽を待つて再確認が必要。

豊英島の鳥たち

いつものトビの巣には2個の卵を親鳥が大事に抱卵中です。巣近くの観察路沿いには樹木・草本とも植物相が多いため観察時間も長くなり、その間トビの親鳥は抱卵を休止して退避。お気の毒でした。この日は、センダイムシクイ、トビ、シジュウカラ、カケス、メジロ、ウグイス、コゲラ、ヒヨドリ、カワラヒワ等のさえずり賑やかで、湖面にはカワウが泳いでいました。

清和県民の森散策記

新緑に誘われて、キャンプ場手前から尾根筋の遊歩道を30分あまり歩いた。ひとしきり登ると八郎塚や高宕山の尾根が見える眺望の開けた場所に出る。その奥には鹿野山の白鳥峰が見える。君津市の花であるミツバツツジ類（2種類）は豊英島には数株が自生しているのみだが、清和県民の森には「日本一のミツバツツジの里づくり」事業で、10年ほど前に約3万本が市により植えられている。遊歩道の周辺では、ミツバツツジはもう花が終わっていたが、遅咲きのキヨスミミツバツツジの赤紫の花が迎えてくれた。もっとも今年は花の付きが悪いとのこと。自生のヤマツツジのオレンジ色やミズキの白い花も鮮やかな対比を見せている。広葉樹の管理のあり方から遊歩道の構造など話題は尽きず、にぎやかな散策となった。（伊藤記）

この活動は、2009年度セブン-イレブンみどりの基金の公募助成を受けています。

(2)



生きていたツチアケビ



金網で保護

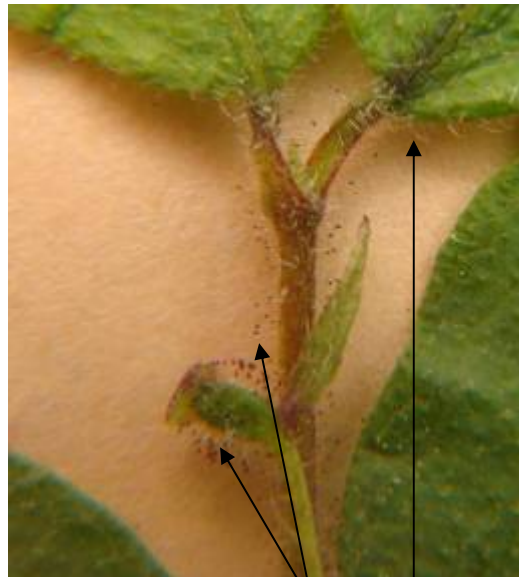


本日の成果発表会

千葉県君津市 豊英島 千年の森 2009/4/19 採取



枝、葉、花



拡大

腺毛 毛



腺毛



毛

若葉

ヤマウグイスカグラ *Lonicera gracilipes* Miq.

日本特産の落葉低木で、高さ 3m に達する。枝は中実で白色の髓があり、葉柄や花柄とともに毛を散生し、ときに腺毛も混じえることもある。葉は広披針形～卵形、ふつう先は短くとがり、基部はくさび形、長さ 3-8cm、幅 1.5-5.5cm、葉柄は長さ 3-5mm。4-6 月、葉より先、または葉と同時に開花する。花柄は細く、垂れ、長さ 1-2cm、先に 1 花、ときに 2 花をつける。苞は線形で 1 個、ときに 2 個あり、長さ 2-8mm、ときに葉状になる。小苞はふつう目だたない。萼片も目だたない。花冠は漏斗状で下垂し、長さ 12-20mm、バラ紅色、花筒は細く、長さ 10-12mm、5 裂片はほぼ同大で長さ 7-10mm。雄蕊は花冠裂片より短い。子房は 1 個つき、2 室、2 個つく時は互いに離れている。花冠や子房は無毛のことが多い。6-7 月、液果は紅熟し、広楕円形で長さ 10-15mm、食用となる。種子は楕円形で長さ 4-5mm。染色体数 $2n=36$ 。本州 (中西部)・四国・九州の山地に多い。

毛の性質や葉形に変化が多く、ふつうさらに以下の変種が区別されるが、中間形もある。

—ミヤマウグイスカグラ var. *glandulosa* Maxim. は、各部に腺毛が多く、特に若枝、葉柄、花柄、子房で目だつ。本州 (東北・北陸・山陰)・四国・九州の山地に多い。

—ウグイスカグラ var. *glabra* Miq. は、茎から花まですべて無毛。葉は広い。本州・四国の山地に野生し、古くから栽植されてきた。まれに白花品がある。

佐竹 義輔 日本の野生植物 木本 II 平凡社